



自治体EA事業の概要

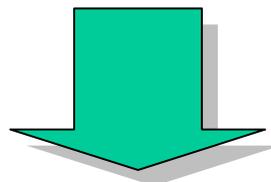
2007年3月20日

株式会社三菱総合研究所

※本資料は、総務省「電子自治体のシステム構築のあり方に関する検討会」第12回会合(平成19年3月6日)における配付資料に基づき、作成しています。

「ICTを活用した行政改革の推進」の必要性

■国・地方を通じた厳しい財政状況の中、地方公共団体は徹底した行政改革を進め、これまでよりも少ない人員でこれまで以上の業務・サービスの実施が可能となる簡素で効率的な行政を実現することが不可欠

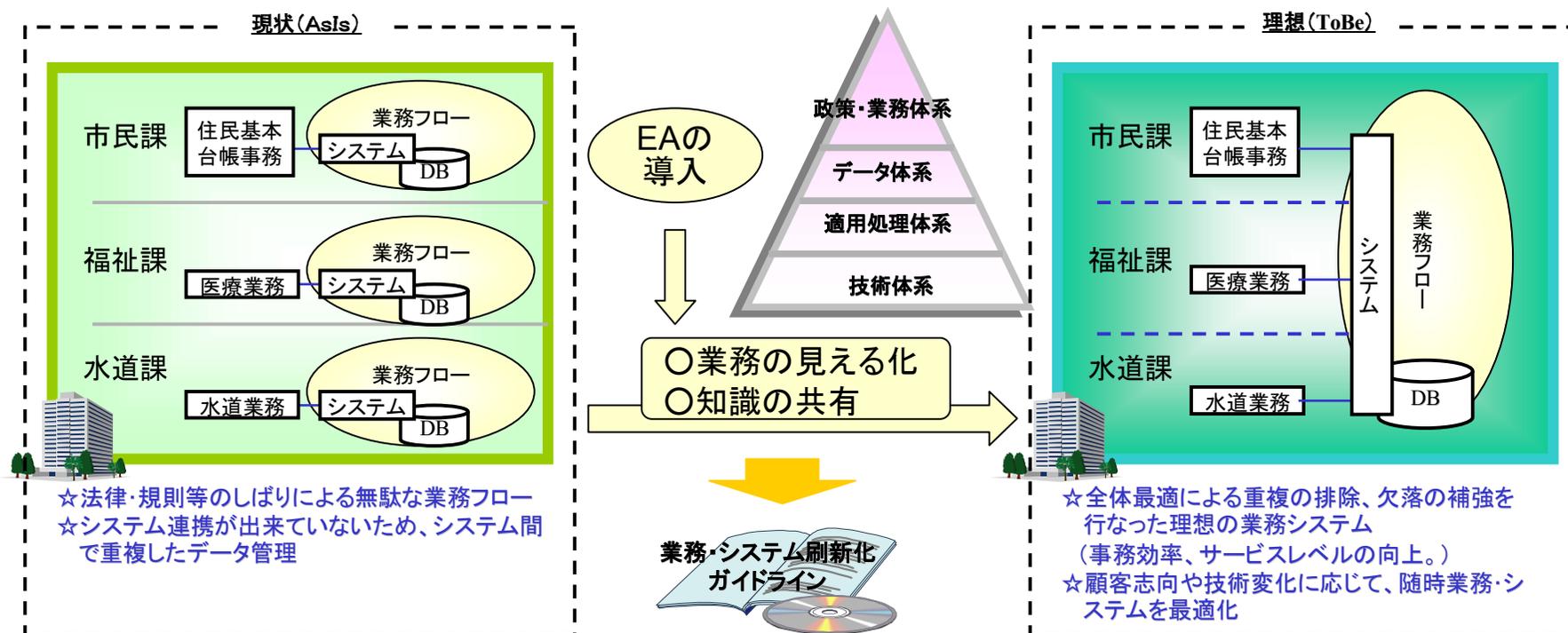


■行政改革の実施にあたってICTの活用は極めて有効であるが、単に業務を電子化するだけでは効果は乏しく、ICTの活用と併せて、業務及び組織の見直しにまで踏み込むことが必要

- 業務フローを見直し、システムで対応できる部分はシステムで対応し、真に必要な業務に重点的に職員を配置転換するなどメリハリのある職員配置に努める必要がある
- よりの確に自治体経営を行うため、知識・情報の共有、政策の企画立案・決定にICTを有効に活用することも重要

「ICTを活用した行政改革の推進」の実現手段としての自治体EA

- 従来情報システムでカバーしていた部分のみの最適化ではなく、紙や口頭で行っている業務を含めた業務全体をとらえた最適化を実施するため、EA(Enterprise Architecture)の手法を取り入れて業務の見直しを行う
- また、「住民の視点に立ったワンストップサービスをどう実現するか」といった住民の満足度を高めることも勘案して、業務・システムの一体的な改革を目指す
- 総務省の自治体EA事業では、業務・システムの刷新に係る調査・検討作業を自治体職員自ら行うための手順と、業務分析の際に参考とする参照モデルを合わせて手引き(業務・システム刷新化ガイドライン)にまとめ、自治体に提供する



- ①政策・業務体系(BA) : 政策・業務の企画・立案、処理過程、情報及び情報の流れを示すモデル
- ②データ体系(DA) : 情報処理を行うために利用されるデータの構成として、業務を遂行するための情報処理に必要なデータ間の関係を示すモデル
- ③適用処理体系(AA) : 業務の遂行に必要なアプリケーションシステムの構成について、データ処理と業務の関係を示すモデル
- ④技術体系(TA) : 業務を遂行するための情報処理に関して必要となるハードやソフトの技術基盤やセキュリティ基盤の構成を示すモデル

自治体EA事業の成果物

①自治体EA－業務・システム刷新化の手引き－ 第二版

○はじめに

○前説編:なぜ、自治体で「業務・システムの刷新化」が必要になるのか?

○基礎編:業務・システムの刷新化で必要となる「自治体EAの基礎知識」の説明

○実践編:想定例に沿った業務・システムの刷新化作業の実施方法の説明

○拡張編:広範囲な業務・システムの刷新化の実施に向けて(必要な体制、予算など)

○資料編:EA図表の表記・作成方法、参照モデル(第2版)、事例集

○用語集

- ・自治体への冊子(CD-ROM付き)の配布
- ・総務省ホームページ上での公開

②参照モデル(第二版)

○業務参照モデル

機能分析表
(DMM)

機能情報
関連図
(DFD)

○情報参照モデル

情報体系
整理図
(UML Class)

○データ参照モデル

情報実体
関連図
(ERD)

データ定義表

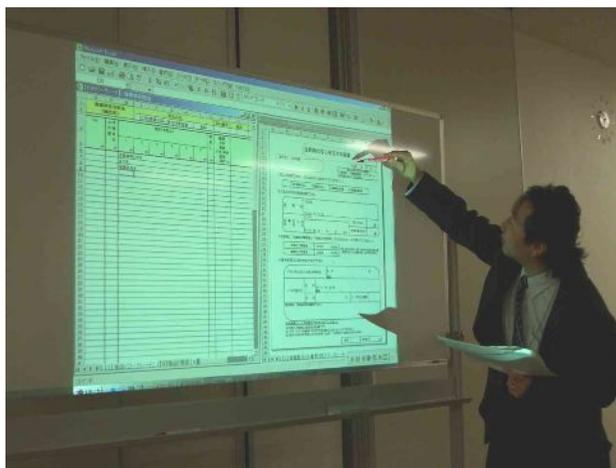
XMLスキーマ
(業務間連携
部分)

- ・「業務・システム刷新化ガイドライン」の付録として、編集可能な電子ファイルで提供

自治体職員が主体で行う自治体EAの分析・検討作業

・自治体EAは「ICTを活用した行政改革の推進」の一環であり、自治体職員自らが作業を行う

参照モデル(案)等の検討作業



情報項目分析表
の作成



情報体系整理図
の検討

業務・システム刷新化検討作業



目的手段分析図の
作成



参照モデルを活用
した現状分析

※平成18年度自治体EA事業における、川口市での作業風景